

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

6

月号

2017年6月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

おとたの
岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し

作:音楽総監督 平光 保

歌とともに

「春の日の花と輝く」と「レクイエム」

岐阜本部 ソプラノ 林 順子

伴和子先生の個人レッスンを受けている15名程で合唱を楽しむ日があります。今年の初練習の時、先生から楽譜を配られて、思わず「私の愛唱歌」と大声をあげてしまったのです。

「春の日の花と輝く……愛はなお緑色濃く……」。高等学校の初めての音楽の授業で、「ミレドレドミソファラドド」と階名で歌い、美しいソプラノの先生のリードで、女学生の歌声が音楽室に響いた。2年間の授業で幾曲も習ったのですが、正確には覚えていません。この歌だけを口ずさんできた。青春時代も今は夢の歌となりました。今日も発声練習のようにこの歌を部屋中に響かせて、足取り軽く合唱団の練習に出かけ、車窓の人となる。四季の移ろいを目の当たりにしながら、金華山の見える田園風景はいつも心豊かにしてくれます。長森のコミュニティセンターへの道程です。練習場に入り席に着いたころには、レクイエムを歌う心の準備で身の引き締る思いになります。

宗教音楽は高校生活で日々讃美歌を歌い、その後音楽を選択した2年間でメサイア（ヘンデル作曲）を学び、歌う基礎を勉強しオラトリオを知るに至った。名古屋で初演のメサイアには、スポーツ選手として訓練を受けていたため出演出来ず、学生生活唯一の心残りとなりました。その後は、専ら音楽を聴くことになりメサイア、レクイエム、第九、森の歌、名古屋管弦楽団の演奏会、男声、女声、混声合唱、学生のコンサートに足繁く通ったものの何時かは歌いたいという心になっていました。合唱に参加するようになったのは娘のPTAで合唱部が出来たときでした。地域の母親達とコミュニティ活動として、施設のボランティアとして、40年が打ちすぎました。良く耳にする流行歌の歌、昔の歌、子どもの歌を聞いて頂き、皆さんに楽しんで頂くことは満足ではありましたが、クラシックが好きな私にとっては一抹の寂しさを感じつつのボランティア活動で

した。そんな時にウィーン岐阜合唱団のチケットを授かり衝撃的な感動と親しみを覚えました。3～4年憧憬演奏を聴くうちに、あの指揮で、あの合唱に、入って歌っているような錯覚に捕らわれて、平光先生の指揮に、いつも感動したことと相俟って何か抑えきれない衝動にかられました。

パンフレットに団員募集と載っていたのを見て、遂に各務原の練習場を訪ねる決意し練習に出かけました。ホールの中に入ったが誰もいらしてなく、何にも出来ず、びくびくしていると、あの指揮者の顔である平光先生が目の前に現れ、二人だけの驚きの出逢いでした。更にどぎまぎしたのは即座に歌のレッスンとなり、『土の歌』をご指導していただきました。1時間後に事務局の清水さん他の2人が来られ、殆ど練習が出来ないまま合唱となりました。長森の練習が木曜日にあるからといわれ、道順を書いてくださいました。清水さんから合唱団の事、入団のことなど説明していただきましたが、高齢のことを心配していただきまして、それを押して入団した事は、すこしづつ老化してきたこの頃、団員であることの責任の重さを感じます。今、暫らく見逃してください。学生時代にやり残した事、それがレクイエムです。いつになったら平光先生のレクイエムが習得できますことか、生命をかけたかと思っております。平光先生のご指揮は身体から迸る情熱を繊細な音への感性が心に伝わってきます。しっかり受け止めて歌うことへの集中力の限り二時間の練習を惜しむように歌いきります。帰りの車中は楽譜を思い出しながら心を鎮めます。平光先生のレクイエムにかけられる生命とも祈りとも思える渾身の指揮を受けるたびに、一日も休みたくない、休めないと思うのです。7月の定期演奏会は80歳になる私の記念日です。天に向かってレクイエムを歌い、祈りを捧げます。多くの皆様に支えられていることに感謝して、歌い祈ります。

入団5年目の今、「レクイエム」と格闘中

岐阜本部 ソプラノ 浅野 昌子

「いつの間にか、5年が経ってしまった！」というのが正直な感想でしょうか。

5年前、新聞の団員募集記事と清水事務長の“初心者でも大丈夫ですよ”という言葉に押されて夫婦で思い切って入団させて頂きました。ここまででは他の皆さんと同じだと思いますが、違うのは私達は合唱というものには全く“ズブの素人”だ、という事。ただ、前年に岐阜青年会議所主催の“三千人の第九”の演奏会があり、人数不足ということで友人に誘われて歌ったのが生まれて初めての経験でした。

その時“合唱って、楽しいものなんだなあー”と思いました。その程度の甘い気持ちの間違いだったですねえー。私はソプラノの主旋律を歌うので、まだ何とかかなりますが、主人の方はバリトンで大変！ 最初の頃は、いつ主人が「もう、辞める」と、言い出すのではないかと“ヒヤヒヤ”していました。それが、ここまで続けてこられたのは、やはりこのウィーン岐阜合唱団には大きな魅力があるということだと思います。

平光先生の音楽に対する“情熱”、“一途”、“こだわり”。練習では先生の厳しい指摘になかなか合格点がもらえ

ない時、心の中で「すこしおまけしてください」なんて、思ってしまうこともあります。でもダメですね「妥協なし」「いつも全力投球」そんな先生に“可愛らしさ”さえ、感じてしまうのは私だけでしょうか？（偉い先生にカワイイなんてだいたいそれた事を言ってゴメンなさい。）

そして、先生を支える伴先生、菅原先生そして多くの先生たちは勿論、森島団長他素晴らしいスタッフの方たちの“ためまぬ団を良くしたいという思いが”このウィーン岐阜合唱団の大きな力となって、発展してきたのだと思います。私もこんな恵まれた素晴らしい合唱団で少しでも成長できたならいいなあ、と思いながら今後練習に励んでいきます。

今年の定期演奏会は「モーツアルト、ヴェルディ、ブラームス、フォーレ」その中でも一番多く演奏の機会があるフォーレのレクイエムを演奏します。今から胸がワクワクします。

皆さんと心をつなげて“天使の歌声で”立派に歌い上げ、素晴らしい感動をお客様に受けとっていただけたら最高ですね。皆さん頑張りましょうね。そして、打ち上げ会で、美味しいお料理が食べたいですね！。

合唱団と共に

岐阜本部 ソプラノ

高橋 加奈子

「光陰矢の如し」 来年2月 ウィーン岐阜合唱団創立20周年を迎えます。

想い起こせば、当時私が所属しておりました女性コーラスの仲間の一人が“オーケストラをバックで第九が歌える”合唱団が出来、団員を募集しているという事を聞き声を掛けてくださり、ほぼ全員が入団することになりました。その時が平光先生との初めての出会いです。初代、事務局の神川さんの後を引き継いで事務局のお手伝いをさせて頂くことになりました。スタッフも決まりスタッフ会でも団員さんをどのように増員するか。演奏会はどうか。全ては未知、手探り状態でした。皆さん、思い思いの発言で喧々ごうごう、創立当時からスタッフでご一緒した清水みち子さんと相談し、励ましあい、助け合い協力しながら共に頑張ってきたように記憶しております。振り返ってみれば、そんな時の流れがあって一年一年が創り上げられ、森島団長以下素晴らしいスタッフにたどり着き、安定し高く評価されるウィーン岐阜合唱団に成長したのではないかと思います。

合宿にしても創立の頃は廃校された校舎で宿泊。夕食は運動場でバーベキュー。材料の買出しは役員と全て持ち込み。そんな当時の事を知っている方は数人かと思えます。二次会は校舎内に作ってある「いろりの部屋」で先生を囲んで夜が明けるまで音楽談義。先生も若かったですね。お酒も随分召しあがられ、本当に素晴らしい頃でした。今もその頃の事が懐かしく思い出されます。紅葉ツアーもそうです。第1回目は木曽路温泉で食事と温泉の日帰りツアーでした。団の和と協調性を作り上げる大切な行事の一つだと思っております。以前、先生から指揮者はイメージを伝えるものであると聞いた事があります。顔の表情、手の表現、体全体を使ってイメージされる先生の指揮に目を奪われ、陶醉していく自分があり、本当に素晴らしい先生に出会えたことを誇らしく思い、指導を受けられる事に感謝しています。これからも、尊敬し、敬愛し続けることでしょう。又、伴先生他多くの先生たちと力を合わせられ、ウィーン岐阜合唱団が、今後益々躍進されますようご期待申し上げます。

凄い感動をいただきました。全てに！

2016年7月の第19回定期演奏会に演奏されました「中野二郎 作曲 平光保 編曲」
「こども歳時記」の事です。

全曲聴きたいと常々希っていましたので、どんなにうれしかったことでしょう。一月・二月それぞれに思い、雰囲気を感じ、「蝉」の声も楽しかったこと。最後の十二月の時は胸が熱くなって涙があふれました。頂戴いたしました合唱曲集を今、聞いてこんなにも長い歌詞をよく覚えられましたこと。「素晴らしい!」、それぞれの季節、歌詞の優しさと、楽しさと、美しさと、メロディによって“日本の国”で“日本の民”でありますこと、とても幸せに思いました。是非CDを作ってください。

子ども達に聞かせたく存じます。

私は、毎月小学校に本の読み聞かせに行っております。「わがひとに 与ふる哀歌」しみじみと素晴らしかった。ソプラノの余韻の美しさ、「きれい!」と、思わず叫びたくなりました。「すごい!」っていいですか震えました。浄嘉さんのお声、とても美しく聞こえましたよ。伴真由子様の美しく、天使のようなお声。本当に人魚姫はあのようなお声で歌ったのからと、まだ数日前に子ども達に読み聞かせた1シーンを思い出していました。伴和子様は「ザーっ」と大好きですから、今回も魅了されました。温かい優しさが伝わってくる、そして燃えるようなハートもやはり、一杯大好きです。

オーケストラの一人ひとりの音が相俟って風景が浮かんで、いつものことながら大きな感動をいただきました。いいですね。

ウィーン岐阜合唱団、ウィーン岐阜管弦楽団、そしてやはり平光保先生の指揮の光から流れ出る音、私は表現がうまく出せませんが、嬉しい豊かな時間を全身にいただきました。音楽にいたって無頓着だと思っていた我が夫、最後の「里の秋」を一緒に歌ってくれました。やはりチョットオンチかなど、感じましたが年を重ねてしまった私達夫婦ですが、あなたのお陰で心温かい時が過ごせましたこと、改めて御礼申し上げます。

ありがとうございました。十二月の“第九”演奏会楽しみにしております。同級生でありながら、ずっと若くチャミングな浄嘉さんお身体大切に!。 宏子様

この手紙は、坪内さんの古くからのご友人で、また同級生であられる 村橋宏子様から頂かれた文面を了解のもとで掲載させて頂きました。村橋宏子様は、ボランティアで小学校の児童に本を読み聞かせとても心優しい方です。



ウィーン岐阜合唱団 岐阜本部
ソプラノ 坪内 浄嘉(書)

「音楽家の名言」より

私にとって、死とは、苦しみというよりも

むしろ、永遠の至福と喜びにみちた

開放感にほかならない。 フォーレ

「レクイエム」を作曲した際にのべた言葉。従来のレクイエムと異なり、“死の子守歌”と称されるほど、安らぎに満ちた言葉である。

【ガブリエル・フォーレ】1845～1924 フランスの作曲家 その音楽は官能的であり、宗教的という二面性を持ち、室内楽や歌曲に名作を残した。

6月～9月練習予定

練習時間は18:45～20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
6月 1日 (木)	長森コミュニティセンター	6月 2日 (金)	大垣市南地区センター
6月 8日 (木)	長森コミュニティセンター	6月 9日 (金)	大垣市南地区センター
6月15日 (木)	長森コミュニティセンター	6月16日 (金)	大垣市南地区センター
6月22日 (木)	長森コミュニティセンター	6月23日 (金)	大垣市南地区センター
6月29日 (木)	長森コミュニティセンター	6月30日 (金)	大垣市南地区センター
7月 6日 (木)	長森コミュニティセンター	7月 7日 (金)	大垣市南地区センター
7月13日 (木)	長森コミュニティセンター	7月14日 (金)	大垣市南地区センター
7月20日 (木)	長森コミュニティセンター	7月21日 (金)	大垣市南地区センター
7月23日 (日)	岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター 14:00～17:00		
7月27日 (木)	岐阜・大垣合同練習 大垣北地区センター 18:30～20:00(オケ合わせ)		
7月29日 (土)	岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター13:00～ (最終確認)		
7月30日 (日)ウィーン岐阜合唱団定期演奏会 本番 岐阜市民会館大ホール 14:00開演			
8月10日 (木)	長森コミュニティセンター	8月11日 (金)	大垣市南地区センター
8月17日 (木)	長森コミュニティセンター	8月18日 (金)	大垣市南地区センター
8月24日 (木)	長森コミュニティセンター	8月25日 (金)	大垣市南地区センター
8月31日 (木)	長森コミュニティセンター	9月 1日 (金)	大垣市南地区センター

指揮者は野球好きなの
 かも知れません。ウィ
 ンフィル管弦楽団などを
 指揮した岩城宏之さん
 (故人)の野球好きは有
 名です。また「コバケン」
 として知られる世界的指
 揮者、小林研一郎さんも
 仕事より野球優先。かつ
 て木曾川の河川敷で小林
 チームと平光チームの親
 善試合をしたことがあり
 ますが、結果は2ー1で
 平光チームの勝ちです。
 今でもお互いのユニ
 ホーム姿の写真が家宝に
 なっています。

素描

力を抜く

ウィーン岐阜管弦楽団 平光 保
 音楽総監督

投げたボールを打者が瞬
 時にバットでとらえる感
 覚は、指揮者が一瞬をと
 らえ指揮棒を振り下ろす
 感覚に似ていると思いま
 す。良い選手の動きは美
 しく、無駄な力が抜けて
 いると感じました。

ピアノも、指揮のテク
 ニックを応用しました。
 指は慣性に任せ、肘は固
 まらないように、上半身
 の重みを利用したエネルギーを伝えるような力の
 抜き方を覚えると、指が
 早く回り出し、音色も美
 しくなり、暗譜も苦にな
 らなくなりました。なら
 ばと、ベートーベンの3
 楽しみたいものです。

や、モーツァルトの協奏
 曲「ジュノンム」の弾き
 振りに挑戦しました。
 全ての運動や芸術、人
 間的な美は、「脱力」が
 鍵だと思えます。また、
 新しい発見や発明、奇跡
 を生み出す原動力も「脱
 力」にあるような気がし
 ます。急に何かに目覚め
 たという経験の持ち主
 は、天から脱力の啓示が
 与えられたのではないで
 しょうか。余分な力や頭
 の力を抜いて宇宙や自然
 の法則に従い、楽な気持ちで身を委ねて自然の恩恵に感謝し、柔軟な心を

頑張る力

小学校一年生の息子が初めてピアノのコン
 クールに出場した。
 昨年11月から毎日、一緒に一時間程度練習
 した。自分で出場を決めた息子だったが、練
 習が嫌いと思うように弾けない。注意すると
 ふてくされ、毎日泣いてばかりいた。そんな
 様子を、私は申し込んだことを何度も後悔し
 た。

【そんなに練習が嫌なら出るのをやめる?】
 私の問いかけに息子は「嫌だ、出る」と、
 最後まで折れなかった。

コンクールには、1・2年生合わせて60
 人が参加し、上位に入ると次の選考会にも出
 場できる。

大きなステージで、多くの人が見守る中、
 みんな堂々と演奏していた。自分の順番を待
 つ間、息子の緊張がひしひしと伝わってきた
 が、私には手をギュツと握ることしか出来な
 かった。息子は自分の持っている力を全て発
 揮。これまでの練習の中で一番ともいえる
 演奏ができたものの、結果は残念だった。

息子は悔しかったようで、帰りの車で
 「もうピアノはやめる」と、号泣。でも、頑
 張って最後までやり通したことは、これから
 の人生で大きな力になるだろう。